

ありがとう 新聞



上野 真純



本田紗智



初瀬健太



前田美江

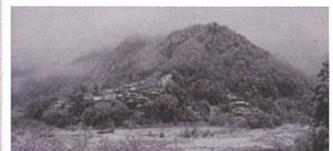
Vol.73
2019年5月9日(木)
編集者:上野 真純

今月の随筆(すいひつとは、心に浮かんだ事、見聞きしたことなどを筆にまかせて書いた文章のことです。) 文:上野 真純

近隣町村のイベントなどに参加すると、若者たちが元気に活動する様子をよく見ます。

それに比べ、天龍村の若者は霸気がないような、約2年半、天龍村で生活して感じたのですが、天龍村の人たちは若者のことをあまり考えてないように思っています。村に来てくれて結婚、出産したら補助金渡す。それだけでは地域が活性しないのではないかと思いました。

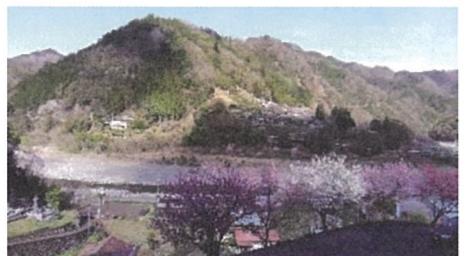
近隣町村の人たちは、部やクラブで横のつながりがある所が多いです。子どもも参加しています。



2019年4月10日(水)撮影

近隣町村のイベントなどに参加すると、若者たちが元気に活動する様子をよく見ます。

それに比べ、天龍村の若者は霸気がないような。約2年半、天龍村で生活して感じたのですが、天龍村の人たちは若者のことをあまり考えてないようになっています。村に来てくれて結婚、出産したら補助金渡す。それだけでは地域が活性しないのではないかと思いました。



2019年4月11日(木)撮影

しかし、天龍村では部やクラブに参加する人が少ないのであります。

一か月が早いです。つい最近、夜な夜
な新聞を書いたはずなのに、また同じく
期限前日の同じような時刻のなかで同じ
ようにこの追い込まれた？現状を報告し
ています。それでも、先月と明らかに違
うことが二つあって、一つは今日（四月
二十二日）からの十日間が一年で一番の
山場ということ。もう一つが花粉症でも
がき苦しんでいるということです☆

いや、もう花粉症が酷すぎて、無理や
りにでもこの症状をポップ☆に見せて、
自分自身を勘違いさせていきます☆発症し
て十年ぐらいが経ちますが、今春が過去
最悪です☆毎年々々「例年の何倍です
☆」とニュースになっていますが、感覺
が麻痺しているのか二倍程度だと、今年
は花粉少なそうでよかったですと安心してい
る自分に恐ろしくなります☆ちょろっと
考えてみても、二倍だって相当の量が春
風に乗っているわけで、鼻腔にとつては
安心の「あ」の字すらなくて、代わりに
「ア」レルギーを起こしている可哀そ
な状態です☆そもそも、毎年のようにな
倍ならば、例年という基準そのものが当
初の例年の何倍にもなっていて、今年の
例年は当初の例年の何倍なんだよ?って
思ってしまいます☆あと、自分は住まい
が西原にあるんですが、仕事場が大河内

でほぼ毎日のように通っています☆二つの
地点では標高差がかなりあって、ということ
は季節の巡るスピードも違うため、花粉の全盛期を長く感じることのできる
有難くない身の置かれ方をしているとい
うことです☆それでも、おかげで大河内
へ上っていく中で山やその一本々々の
木々が点描のようなタッチで染められて
いくのを目にすることができますし
桜も長く堪能できるので(大河内では四
月二十日頃にソメイヨシノが開花しまし
た)、そこは贅沢だなと心から思ってい
ます。まあ、あと少しの辛抱(のはず)な
ので、アレグラが効かなくなつたこの鼻
に春を満喫しようと思います☆

で、手は尽くします。

迫って来るものは受け入れるしかないの
りもその分岐点が迫ってきてします。
け入れる余裕もなく、分岐点にというよ
ているわけなんですが、そんな理屈を受
け入れる。株分種をまいて、数日で芽が出てきま
した。ネギも順調に種苗が育つたので、
煙の準備も着々です。ズッキー二七〇

にせんじカフェ 5月

営業日 8日(水)、15日(水)

22日(水)、29日(水)

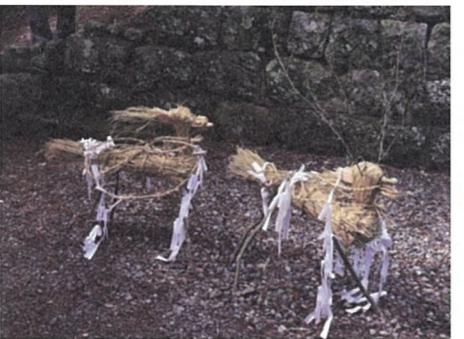
営業時間 11時から14時まで

営業日以外に来店されたい方、送迎希望の方はご相談ください。



天龍村で、これから長く暮らして
いく若者たちが村で楽しめる
ようもっと若者の要望を聞き
、もつと予算をあててもいいの
ではないかと思いました。





刻々天龍村 卿用便り

ここにちは。暑かつたり寒かつたりの三寒四温を繰り返すうちに、日中は陽が射すと暑いくらいの陽気となり、まるで初夏のようです。間もなく眩しい新緑の季節となり、茶摘みが始ままり、あつという間に夏が来るんだろうなあ：と思うと、時間が過ぎるのが本当に早く感じます。

三月下旬から四月半ばまで来村案内が三件ほど続き、先日ようやく予定していた分のスケジュールを無事に終えることができました。地域づくり・農家民泊・田舎と都市の繋げ方などに興味のある学生さん、昔の写真や村の文化・伝統・紡がれてきた暮らしに関心を持つてくださっている編集者さんと、写真民俗を研究している芸術大学の先生、お隣の遠山郷から草木染体験に来てくれた方々、それぞれ住む場所も来村の目的も全く違いましたが、皆さん思い思いで天龍村での滞在を楽しんで帰てくれたようで、本当に良かったです。

今回の来村案内で心掛けたことのひとつが、なるべく村の方と多く接触の時間を持つてもらうことでした。山仕事体験や聞き取り、伝統行事の見学、会いなどを通して、予想以上に色々な方とお話しすることができたのではないかと思います。今後も不定期ではありますが、天龍村に興味をもつてくださる方々と村の方々と一緒に時間を過ごす機会をつくっていけたらいいな、と感じています。

三月から通っている野草の知識を学ぶ講座協力隊として活動を始めてから、あつという間に一年以上が経過しました。ある統計データによると、二年目を過ぎた辺りから定住を意識した活動に本腰を入れる隊員が多いようです。私がしている活動の多くは、現実的な視点から見ると「お金にならないこと」かもしれませんのが、地域おこし協力隊は定住や起業だけが目的の制度ではありませんので、限られた時間の中、協力隊という立場だからこそ出来ることに時間を費やしてみるのも、ひとつ活動の形ではないでしょうか。

まえたの天龍山暮らしへ入門～

文：前田美沙

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の前田です。芽吹きがはじまり、山の新緑が眩しい良い季節になってきたですね。山菜山の管理をさせて頂いているのですが、タラの芽やワラビが収穫を迎え収穫出荷作業に勤しんでいます。おまけに春の味覚を食べ方も楽しんでいます。おまけに春の味覚を食べれる方も楽しんでいます。中井侍地区のお茶摘みもゴーラーデンウイーク後半くらいから始まるかも？ということで、ソワソワしています。私はお茶の時期は中井侍製茶工場に常駐している予定です。今回は私から工場の作業を覚えたと申し出て、お茶の時期の間はお茶工場に集中して仕事をさせていただけたことになりました。お茶工場に集中して仕事を始めた農家さんが手塩にかけ、栽培から摘みまで行つて届いたお茶を扱うとても重要な役割。

それを常に意識しながら氣を引き締めて仕事をしたいと思います。天龍村の春を過ごすのも飲むのも、もちろん蒸す工程を行うのも初めてで、いい緊張感とワクワク感、これが好きです。とても楽しみです。

拍手が起り、泣いている方が何人もいました。「見せてくれてありがとうございます」と涙を流しながら握手してくれる方もいて、本当にやつてよかったです。私も泣きそうになりました。いつも村の方にはお世話になりっぱなしで、「地域おこし協力隊」という肩書きは名ばかり、私から提供できることばかりです。ほんとに僅かです。この映画上映会を通じて私の名前を憶えてくださった方や、初めてお会いした方も多く、私にとって特別なイベントになりました。若者の娯楽に目を向けられることが多い世の中ですが、天龍村だからこそ、こういった活動にもできる限りも取り組んでいきたいです。

